# 鹿沼文化財発掘PROJECT

かぬま ぶんかざい はっくつ プロジェクト

## 実施報告書

鹿沼 Kanuma City

一般社団法人 三乗堂 SANJOU-DOU

後援：鹿沼市・鹿沼市教育委員会

# 目　次


2　ご挨拶・謝辞
3　事業概要

6　お悩み相談紹介
7　No.1　祖母の枕屏風
9　No.2　街の中の仏像
11　No.3　ずっと相棒の十手
13　No.4　仏像のお掃除方法
15　No.5　絵画コレクションのその後
17　No.6　絵巻物と古文書
19　No.7　5巻セットの地図
21　No.8　押入れの中の彫物
23　No.9　お堂と位牌の伝承

25　あとがき

# ご挨拶・謝辞

私たちは鹿沼市内にある未指定の文化財を守るため、「鹿沼市ふるさと納税型クラウドファンディング活用公益活動支援事業」を活用し、2024年12月に「文化財お悩み相談会」を開催しました。

2017年に仏像修理工房を設立して以降、一般家庭にも仏像をはじめとする文化財を大切に保管されている方が多く存在することを知りました。しかし、多くの所有者が「どこに相談したらよいかわからなかった」と悩まれており、その声を受けて今回の相談会を企画しました。

文化財は地域の歴史を映す鏡であり、次世代に受け継ぐべき貴重な財産です。

本企画とこの報告書を通し、皆様にとって文化財を身近に感じたり、興味を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

---

本企画にあたり、多くの皆様の温かいご支援とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

「文化財お悩み相談会」の実現に向けて、ふるさと納税型クラウドファンディングを通じてご支援くださった皆様、当日ご相談に訪れてくださった地域の方々、そして本プロジェクトの実現のためにチラシ掲載や配布、取材を行ってくださった方々、相談や悩み事の解決、さらに本紙の制作に力を尽くしてくださった関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

### 事業協力（五十音順・個人、法人順・敬称略）

井上俊邦・齊藤加居・鎮目良文・早川駿治・原田敏行・堀野周平・松村優花・市内公共施設・Center・kanuma commons・ちいさな複合施設あむ・鹿沼市・鹿沼市教育委員会

### 掲載報道機関（五十音順）

朝日新聞社・鹿沼ケーブルテレビ・下野新聞社・東京新聞・とちぎテレビ

# 事業概要

## 鹿沼市ふるさと納税型クラウドファンディング活用公益活動支援事業補助金

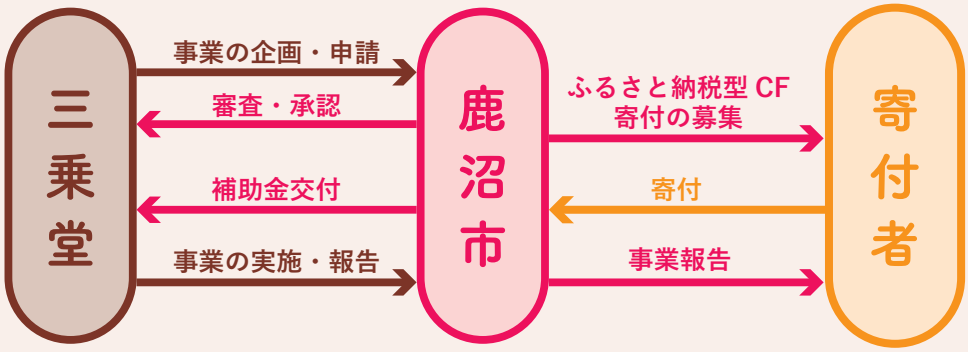
### 事業目的

市では、第8次鹿沼市総合計画において「花と緑と清流のまち 笑顔あふれるやさしいまち」を目指すまちの姿とし、多様な主体による協働・共創のまちづくりを推進しています。

本制度では公益に資する活動を行う団体を支援することで協働・共創のまちづくりが進むことを目的に、ふるさと納税型クラウドファンディング(CF)を活用し、本市が寄附の受け入れ先となり、公益活動団体の行う公益的な活動の経費の一部を補助します。

（鹿沼市webサイトより）

### 事業の流れ




寄付募集期間：2024 年 7 月 19 日～ 2024 年 9 月 18 日（62 日間）

| 寄付金額 | 支援人数 |
| --- | --- |
| 636,000 円 | 25 人 |

ふるさとチョイス GCF
◀ 掲載 web ページ

### 三乗堂の事業内容

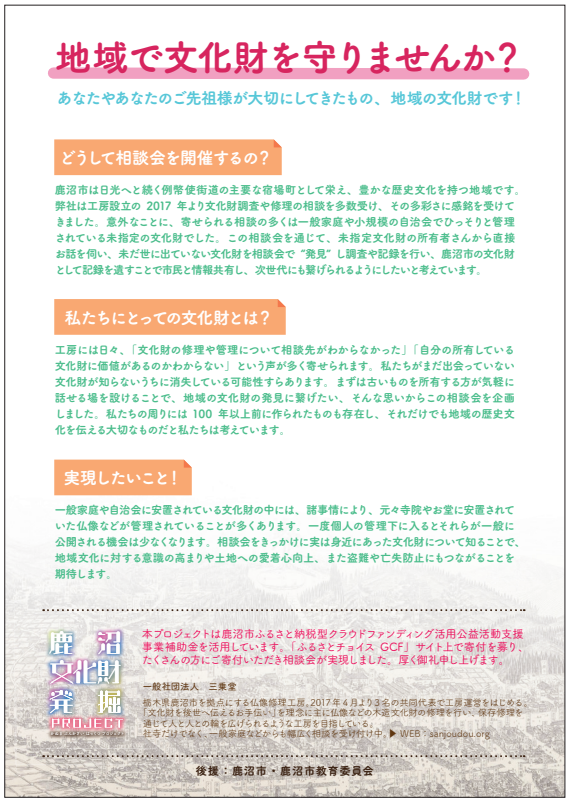
**事 業 名 ： 鹿沼市の未指定文化財を後世につなぐ事業**

**事業概要：**

地域の文化財（未指定）の存在を広く市民に知ってもらい、興味関心をもってもらうことを目的とし、「鹿沼文化財発掘！プロジェクト」を立ち上げ寄付を募り、集まった資金を利用し、鹿沼市内の文化財について誰でも気軽に相談できるイベント「鹿沼の文化財お悩み相談会」を開催する。

## 補助事業実施告知チラシ

寄付金を活用し、鹿沼市内約２万戸にポスティングサービスを利用しイベント開催の周知を行った。




## 補助事業会場の様子

補助事業にあたる「鹿沼の文化財お悩み相談会」は鹿沼市、鹿沼市教育委員会、鹿沼まるごと博物館第 10 回企画展実行委員会主催の展覧会「Re-Create」と連動して開催した。

【実施日時】
2024 年 12 月　7 日 9:00-16:00
2024 年 12 月 14 日 9:00-16:00

【相談件数】
9 件（相談会期間外 2 件含む）

No.1-9

地域の未指定文化財発見と保護のための

# 鹿沼の文化財お悩み相談会

本冊子では、相談会をきっかけに鹿沼市民の方から寄せられた9件の文化財に関するお悩み、相談を紹介しています。

これらの文化財は、それぞれ異なる背景や所有者の思いが込められており、所有者の意向によりすべての情報が公開されていない場合もあります。また、寄託や寄贈についての詳細は、冊子制作時点ではまだ決定されていない事項であるため、今後の進展により変更される可能性があります。これらの点について、ご留意いただきながらお読みいただければ幸いです。

※相談受付順に掲載

# No.1　祖母の枕屏風

## お悩み

この枕屏風がどんなものか知りたいです。
また、このあと受け継いでくれる人もいないので、どこかへ寄贈したいと考えています。

寄贈先はお任せします！

## DATE...

| | |
|---|---|
| 名　称 | 枕屏風※ |
| 素　材 | 紙本・木製枠・色刷り |
| 個　数 | 1点 |
| 所在地 | 鹿沼市松原 |
| 大きさ | 縦 59cm 横 86cm |
| 状　態 | 傷みは見られず良好 |

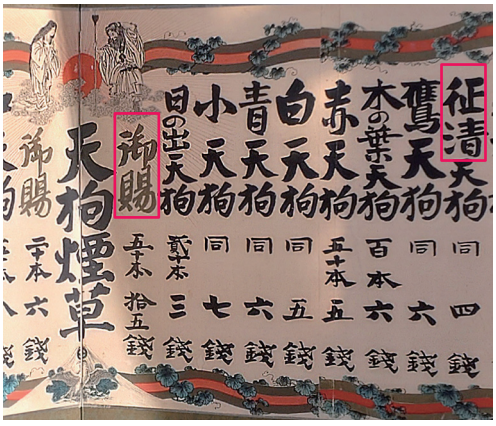
※枕屏風：枕もとに立てる小さな背の低い屏風

## 01 由来

鹿沼市松原に住む所有者が祖母から受け継いだもの。
所有者の祖父は昔茶舗※を営んでいたが、煙草屋を営んだり、煙草を栽培していたとは聞いていない。

※茶舗：お茶を製造し販売する店。

## 02 所見




当該資料は、岩谷商会のたばこの定価表である。これは当時、岩谷商会から販売店（小売）に配布されていたもので、岩谷商会自身が屏風仕立てにしていたわけではなく、基本的にはペラの状態だった。店舗側で欄間額などに仕立てて飾ることが多く、同様のものが「たばこと塩の博物館」にも所蔵されている。
また、当時は座接客が多かったことから、屏風仕立てにした可能性も考えられる。時代としては、「恩賜」「征清」といった文字が確認できることから、明治27年から明治37年にかけてのものと判断される。
銘柄には古いものが多く含まれており、明治30年代初頭のものと見てよいだろう。

（たばこと塩の博物館　主任学芸員 鎮目良文氏）

## 03 対応

所有者から本資料の情報を聞き取り、適切な寄贈先の候補について検討し、紹介を行なった。

参考：たばこと塩の博物館　「https://www.tabashio.jp/index.html」

# No.2　街の中の仏像

## お悩み

20 年くらい前ですが、お厨子を開けた時に仏像の腕が落ちていることに気づきました。
管理している皆んなで話し合いをして今後修理をしたいと考えています。

どうすればいいでしょうか?

## DATE...

| | |
|---|---|
| 名　称 | 木造 仏像（厨子入り） |
| 素　材 | 仏像：木製、彩色 / 厨子：木製、漆塗 |
| 個　数 | 1 点 |
| 所在地 | 鹿沼市内（非公表） |
| 大きさ | 仏像：高 15cm |
| | 厨子：高 30cm |
| 状　態 | ・仏像と光背がずれている |
| | ・埃が溜まっている |
| | ・腕が 1 本脱落している |
| | ・宝冠に歪みが生じるか |

● No.02　2024年12月07日 ●

## 01 由来

作者は不明。公開はしていない。

毎年、一年に一度、お祭りでご開帳し管理は数人で行なっている。

元々違う場所に安置されていたが、相談者の自宅近所で管理することになったと口伝で伝わる。

## 02 所見

小ぶりながらも丁寧に作られた印象を受ける。内側に漆箔が施された厨子内に安置され、脇侍も附帯しており、大切に守られてきたことがうかがえる。

相談会時に相談者より提供を受けた写真による判断ではあるが、江戸時代頃の作ではないかと想像される。

脱落や一部部材の亡失の可能性はあるものの、全体的に状態は良好に思われる。今後修理を検討しているとのことなので、次の世代へ受け継ぐためにも、修理の打ち合わせと処置を丁寧に行う必要があるだろう。

（三乗堂）

## 03 対応

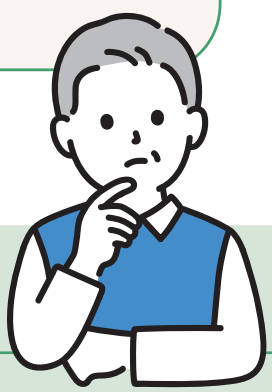
今後、調査を行った後、修理について検討する。

相談者希望により、詳細は非公表。

# No.3 ずっと相棒の十手

## お悩み

この十手がどういったものか知りたいです。
郷土史には最初は興味がなかったのですが、別件でいろいろと調べていたら、栃木に関係するものがあったり、面白くなってきたので、自分の持っているものも何かあるのではないかと気になってきたんです。
十手については調べたことはありません。



DATE...

| | |
|---|---|
| 名　称 | 十手（じって） |
| 素　材 | 金属製（鉄製か） |
| 個　数 | 1点 |
| 所在地 | 鹿沼市貝島町 |
| 大きさ | 高32cm 幅 2.6cm |
| 状　態 | ・傷みは見られず良好 |
| | ・八角の棒身 |
| | ・赤い紐の上に白い紐が巻かれている |

● No.03　2024年12月07日 ●

## 01 由来

先祖代々家に伝わるもので、おそらく江戸時代から受け継がれてきた。一番古い記憶では村井町の自宅にあったが、引越しを繰り返す中で現在は貝島町の自宅で保管されている。祖父は警察官だった。親戚からは江戸時代に作られたものだと聞かされている。サイズが小さいことから、当時の下っ端の者が持っていたものではないかと考えている。

子どもの頃、チャンバラ遊びをしていた際に白い紐を巻いた記憶がある。元々はその下に赤い紐が巻かれていたが、確か切れていた。

## 02 所見

江戸時代の村落には、時代劇に登場するような十手を携えた警察職に相当する者は存在しなかった。そのため、十手が江戸時代のものだとすれば、村の治安維持や護身を目的として所持されていた可能性がある。

治安維持の道具として袖搦(そでがらみ)※が村役人宅に保管されていた事例は鹿沼でも確認されているが、十手はある程度の訓練を必要とするため、誰もが扱えるものではなかったと考えられる。

（とちぎ歴史資料ネットワーク運営委員　堀野周平氏）

武士が持つ十手は捕物捕具であるとともに時代が下ると高い身分の者は飾金具などの装飾が施されたものも見受けられるが、集落の警備を目的に町人に貸与せられる十手の使途は罪人の捕縛や身分を示すために用いられるものであり、このため使用目的に応じて寸法や形状も様々であり、特に地方においては素朴なものが見受けられる。

（郷土史家　井上俊邦氏）

※ 袖搦：長い柄の先にたくさんのトゲをつけ、罪人の袖にからませて引き倒す道具。

## 03 対応

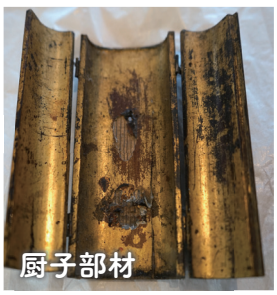
本事業の期間中には、十手に詳しい専門家からの見解を得るに至らなかったため、短期間の調査では本資料がどのようなものか明確にはわからなかった。十手に関する書物や、所蔵をしている博物館などを介し、今後も何かわかれば所有者に知らせたい。

十手の名称参考：井出正信(1995)『江戸の十手コレクション』里文出版／井出正信(2004)『江戸の十手コレクションII』里文出版

# No.4　仏像のお掃除方法

木造 虚空蔵菩薩坐像

木造 釈迦如来坐像（厨子入り ）


厨子部材

## お悩み

仏壇を掃除していたら仏像が出てきたので、相談に来ました。
仏像の管理の方法について知りたいです。
埃が積もっていたので水で洗おうとしていたんですが …

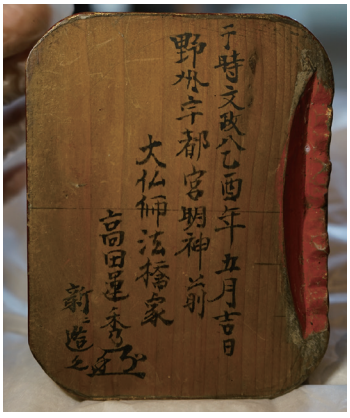
## DATE...

| | |
|---|---|
| 名　称 | 木造 虚空蔵菩薩（こくうぞうぼさつ）坐像（ざぞう） |
| | 木造 釈迦如来坐像（厨子入り ） |
| | 厨子部材 |
| 素　材 | 仏像 / 厨子：木製、漆塗、漆箔 |
| 個　数 | 各 1 点 |
| 所在地 | 鹿沼市天神町 |
| 大きさ | 木造 虚空蔵菩薩坐像 :高 6.6cm |
| | 木造 釈迦如来坐像　:高 9.5cm |
| | 厨子部材 高:12.3cm |
| 状　態 | 全体共通：埃が堆積している |
| | 虚空蔵菩薩坐像： |
| | ・宝剣、光背が亡失 |
| | ・台座底面に墨書あり |
| | 厨子部材： |
| | ・仏像、屋根、底板が亡失 |

● No.04　2024年12月07日 ●

## 01 由来

所有者の祖父は絵師だった。戸棚を改造し仏壇にしており、周りには極楽浄土の絵が描いてある。その仏壇には江戸時代の位牌がたくさんあるので、江戸時代からあるのではないかと思っている。なぜ仏像があるのかは不明。菩提寺は近くのお寺で先祖が墓地の整備などで寄付したと古文書に残っていた。




## 02 所見

持ち込まれた仏像は、いずれも経年の埃が堆積していたが、埃が固着していなかったため、簡易的な乾式クリーニングで除去できると判断した。持ち込まれたもののうち、虚空蔵菩薩坐像には、台座裏に作者の墨書銘があった。

（三乗堂）

江戸時代初期から明治期まで約250年間続いた仏師の高田家は、現在も県内に多くの作品が残されており、特に6代運応と7代の運秀時代が最も栄えた時期といわれ、本像を作成した7代の運秀は宇都宮二荒山神社の門前で工房を構えていた。特に文政期は町人文化が花咲いた時代、本仏像が個人宅に大切に安置されていることは興味深い。

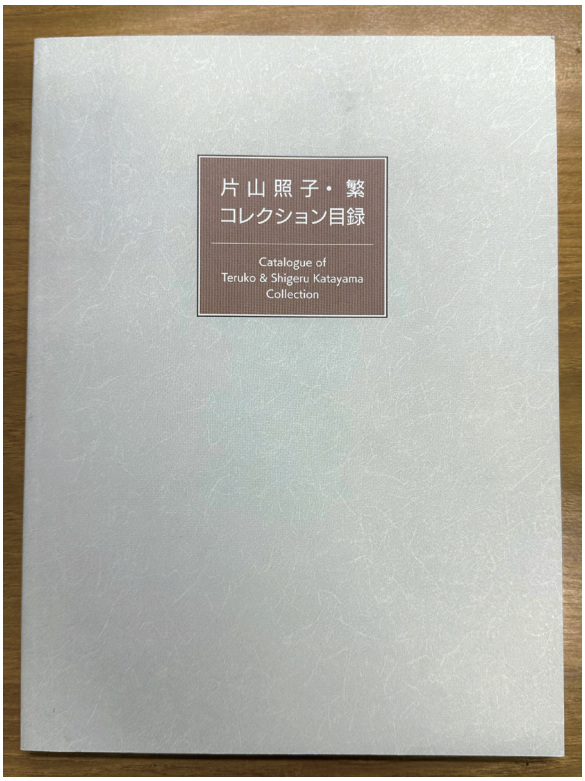
（郷土史家　井上俊邦氏）

## 03 対応

▶

・クリーニング方法を説明し、実演した。
（紙の塵取りを使い、乾いた絵筆で優しく埃を払い落とす）
・文化財に損傷を与えてしまう「セロハンテープ」や「近代の接着剤」を使わないようお願いした。
・金箔に固着する汚れは専門業者に相談するように伝えた。
・厨子の部材は今後、仏像が見つかる可能性があるため保管をお願いした。

# No.5 絵画コレクションのその後



## 相談

展示を見にたまたま通りかかったら相談会をやっていたので立ち寄りました。
数年前に寄贈した私たちの絵画のコレクションについて、地元の人にも知ってほしいと思っています。

## DATE...

| | |
|---|---|
| 名　称 | 絵画 |
| 個　数 | 約 1,500 点 |
| 所在地 | 愛知県碧南市 |

## 01 由来

相談者は宇都宮市出身。妻は鹿沼市出身。

絵画のコレクションを始めたきっかけは、川上澄生の作品だった。

鹿沼市立川上澄生美術館が創立される前、相談者が３０代の頃、川上澄生を知り、非常に惹かれ興味を持ちコレクションを始めた。

30 年かけて収集してきたコレクション1,500点を2015年、愛知県碧南市に寄贈したが、絵画以外の文字資料も多いことから、全てが常設展示されているわけではない。

## 02 所見

柳宗悦は、著書『蒐集物語』で、日本には優品を集める多くの収集家がいるものの、それらは秘蔵にされ、しかも当人が亡くなると全て散逸してしまう状況を嘆いている。柳は彼らと同じ轍を踏まないよう、自らの収集品は日本民藝館に収め、公開し、社会に資することで、そうした問題に対処した。

県内には、各市町に小規模ながらも充実したコレクションを有する美術館がいくつもある。それらの多くは、県ゆかりの収集家が、己の審美眼を頼りに積み上げてきたコレクションの提供や寄贈を受けてのものだ。鹿沼にも川上澄生作品の大コレクター長谷川勝三郎がいた。片山照子・繁コレクション自体は愛知県・碧南市にあるものの、美術史にとって重要な作品や資料を公的機関へ提供した決断に、県民のなかに培われた精神の連続性を垣間見る。

（栃木県歴史文化研究会常任委員　原田敏行氏）

## 03 対応

コレクションの目録や寄贈当時の新聞記事のコピーを共有いただく。

まずは本冊子でコレクションについて紹介し、広く知っていただく機会としたい。

今後、市内での展示の機会を期待する。

写真：碧南市藤井達吉現代美術館(2019)『片山照子・繁コレクション目録』

# No.6　絵巻物と古文書

絵巻物（閉）▲

絵巻物（開）▲

## お悩み

古文書はコピーですが、どんなことが書いてあるのか、内容が知りたいです。

絵巻物も一体どういうもので、何を書いたのか知りたいなと思っています。

## DATE...

| | |
|---|---|
| 名　称 | 絵巻物（南遊余墨）/古文書（由緒書き） |
| 素　材 | 絵巻物：絹本、墨書き、彩色 |
| | 古文書：紙本、墨書き |
| 個　数 | 各１点 |
| 所在地 | 鹿沼市内（非公表） |
| 状　態 | ・傷みは見られず良好 |
| | ・絵巻物はまくり※ |
| | ・由緒書きは印刷物 |

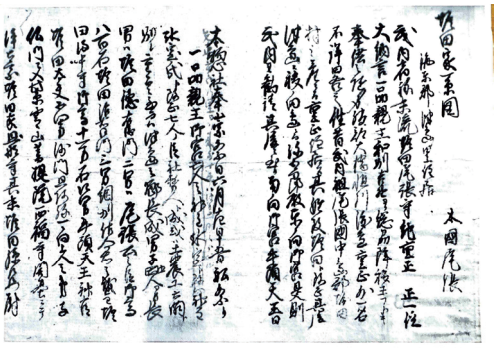
※まくり：表装していない書画のこと

## 01 由来

所有者家族の行事の際には、曽祖父が描いた書や絵を家に飾る習慣があった。それらの書や絵は代々受け継がれてきたものであり、曽祖父は愛知県に在住し、耕石（コウセキ）という画号を用いて制作を行っていたとされる。

古文書は明治時代、絵は大正時代のものと伝わっている。また、名古屋の親戚からこれらの作品のコピーを受け取ったことがあるが、現在その親戚が存命かどうかは不明である。

## 02 所見



古文書 ▶

**【絵巻物】**この絵巻物、大正五年（1916）作の「南遊余墨」には、紀伊半島の旅先で詠んだ漢詩と風景画が描かれており、当地の歴史を考えるうえで貴重な資料である。堀田耕石（画号：耕石、別号：撫松道人、張州仙人史）は、安政元年（1854）に尾張国で生まれ、織田杏斎、葦原眉山、大出東皐に学び、守山湘騮に師事して南宗派の山水画を得意とした。農商務省編『内国絵画共進会出品人略譜』には「堀田義雄磊石」として名が記されており、これが耕石にあたると考えられる。また、『紀州熊野遊覧案内』には、耕石が鉾窟を訪れ詩画を描いたことが記録されている。

**【古文書】**明治十八年（1885）作成の堀田家の由緒書である。これによれば堀田家は武内宿禰を祖とする紀氏の末裔を称し家名は尾張国中島郡堀田村に住したことに由来するという。

本資料の筆者の家系は津島牛頭天王社の神官を勤めた堀田太夫の末子を祖とし、海西郡西一色村に土着して農民となったとする。天保十三年（1842）には堀田彦十郎豊昌が尾張徳川家に仕え、勘定所に勤務したが、明治維新と廃藩置県によってその職を失った。この由緒書は津島神社神官家に家の由緒を求めていることなど、当時の堀田家の歴史認識を知るうえで興味深い資料である。

（とちぎ歴史資料ネットワーク運営委員　堀野周平氏）

## 03 対応

東海歴史資料保全ネットワークの早川駿治氏に協力をいただき、由緒書に所縁ある土地か、絵の中に登場する土地を参考に、今後の活用を検討中。

参考：国立国会図書館デジタルコレクション「https://dl.ndl.go.jp/」

# No.7　5巻セットの地図

## お悩み

どのような内容なのかを知りたいと考えており、文化的な価値があるのであれば、鹿沼市に限らずゆかりのある場所へ寄贈できればと思っています。
子どもに託すのは負担が大きいため、今のうちに寄贈したいです。

## DATE...

| | |
|---|---|
| 名　称 | 巻物（地図） |
| 素　材 | 紙、彩色 |
| 個　数 | 5点 |
| 所在地 | 鹿沼市内（非公表） |
| 大きさ | 巻物小：長 33.0cm |
| | 巻物大：長 59.0cm |
| 状　態 | ・全体にシミ |
| | ・一部破れ |
| | ・表具を直した形跡あり |

## 01 由来

所有者の妻の祖父母は古物商を営んでいた。もともと東京に住んでいたが、戦時中に鹿沼へ疎開し、そのまま移住した。祖父は早くに亡くなり、古物商の商品がどこから仕入れられていたのかは不明である。妻の父は古物商を継いだわけではなく、何も聞かぬまま急死した。

祖母の話によると、かつてこの巻物を東京大学の研究者が調査に訪れたことがあるという。また、昔は刀もあったらしく、幼少期に祖母が手入れをしていた記憶がある。

家の建て替えに伴い、古い家を解体した際、父が古物商の商品を整理または処分した可能性がある。その中で、この巻物だけがなぜか残され、現在に至っている。

## 02 所見

林子平「三国通覧図説」の附図のみを写したものと考えられる。須原屋から出版されたものには林子平の花押が確認されないため、別の写本をさらに写した可能性がある。「三国通覧図説」写本の流れの中でどの位置にあるのかが明らかになれば、資料としての価値はさらに高まるだろう。

日本史上に位置づけられる資料ではあるが、来歴が不明である点が惜しまれる。林子平にゆかりのある宮城県や仙台市が寄贈先として適している可能性がある。

（とちぎ歴史資料ネットワーク運営委員　堀野周平氏）

## 03 対応

適切な寄贈先の候補について検討し、紹介を行った。
さらに、巻物の記録作業を実施した。

# No.8　押入れの中の彫物

蟇股（推定箇所）

脇障子（推定箇所）

## お悩み

数十年前に仕事場の押し入れを片付けていたら出てきた。どういうものか知りたい。

実は尺八もたくさんあるので、今後それも含めて寄贈を考えています。

## DATE...

| | |
|---|---|
| 名　称 | 彫刻（建造物の装飾か） |
| 素　材 | 蟇股（推定箇所）：木製 |
| | 脇障子（推定箇所）：木製、彩色 |
| 個　数 | 各1点・そのほか2点の薄板 |
| 所在地 | 鹿沼市上日向 |
| 大きさ | 蟇　股（推定箇所）：幅123cm |
| | 脇障子（推定箇所）：幅109cm |
| 状　態 | 蟇　股（推定箇所）：虫食い、経年劣化 |
| | 脇障子（推定箇所）：彫刻が亡失、彩色層の剥落が激しい |

## 01 由来

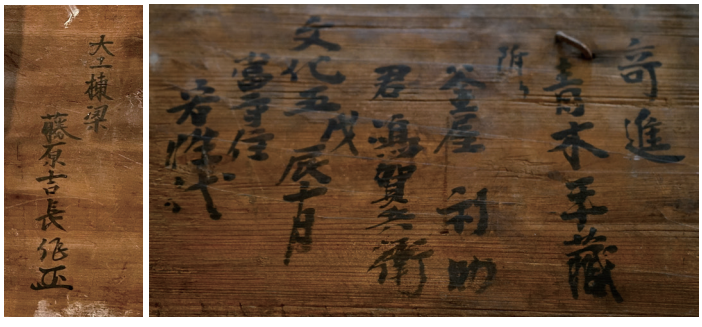
所有者は現在80代で、大工の家系に生まれた。先代（父）は明治38年生まれで、代々建築大工を生業としており、建物の建設に従事していた。先先代（祖父）はかつて中田町に住み、仕事をしていた。川上澄生美術館の建設にも携わった。鹿沼の屋台が作られ始めたのは文化2年頃で、最も古いものは下横町の屋台とされるが、本資料との関係は不明。

## 02 所見

本資料は、寺院の建築装飾として使用されていた可能性がある。彩色された彫刻は部材が失われているが、もとは鳳凰をかたどったものであったと考えられる。彫刻からはいくつかの墨書きが確認され、そのうち大工棟梁「藤原吉長」の名が記されていた。藤原吉長は、宇都宮市白澤町の神輿台座や岩原町の天棚にもその名が見られる。本資料では大工とされるが、岩原町の資料では彫物師と記されている。寄進者として鹿沼宿内の世話人の名が確認できる。　（郷土史家　井上俊邦氏）

寄進を受けた寺院は不明だが、当時の住職の名が記されていることから、寄進者が居住していた地域の寺院史を調査することで、本資料の由来を特定できる可能性がある。本資料は、鹿沼の町の人々と寺院の関係、ならびに彫刻師とのつながりを考察する上で貴重な資料である。

（とちぎ歴史資料ネットワーク運営委員　堀野周平氏）

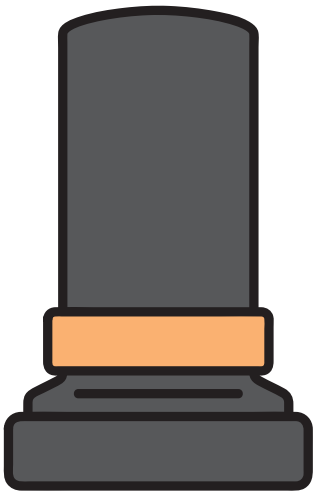


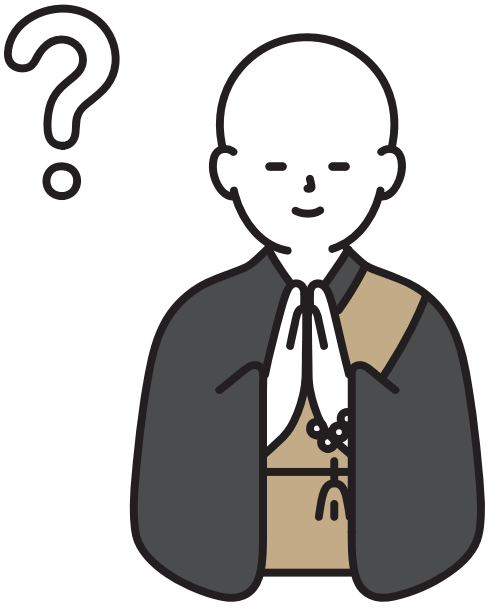

▲ 彫刻裏面に書かれていた墨書

## 03 対応

当時の鹿沼の有力な世話人たちが寄進したものであり、鹿沼市での受け入れを検討中。

# No.9　お堂と位牌の伝承





## 相談

子どもの頃の思い出で、自宅の敷地内にあったお堂の中に大きな位牌があったんです。

あの位牌はなんだったのか…。
一度、お堂の中を調査してほしいと思っています。

## DATE…

| | |
|---|---|
| 名　称 | お堂 / 位牌 |
| 素　材 | 不明、木製か |
| 個　数 | 不明 |
| 所在地 | 鹿沼市久保町 |
| 大きさ | 不明 |
| 状　態 | 不明 |

## 01 由来

かつて、この地で病か何かで倒れた先祖がいた。
家人が途方に暮れていたとき、偶然にも僧侶が通りかかり、せっかくだからと祈祷をしてくれた。すると、不思議なことに亡くなりかけていた先祖が息を吹き返した。
この出来事に深く感激した家族は、その僧侶の宗派への改宗を決意し、感謝の証としてお堂を建立したと伝えられている。
お堂の中には、足利学校に安置されるような大きな位牌があった。一般のものよりも大きいので誰かお殿様の位牌だと聞いている。

## 02 所見

情報が乏しく判断することが難しいが、相談の位牌は伝承どおり殿様の位牌であるとともに、旅の僧侶に関わる可能性もあるのではないか？
当時は定まった寺を持たず、各地を行脚して修行する僧侶や行者なども存在した。僧侶の祈祷により病が平癒し、感謝の気持ちを後世に伝えるため持仏堂を建立し今日に受け継いでいることは大変興味深い。
本件の位牌を解明するためには、堂宇の中に他にどのようなものが安置されているのか調査する必要があるが、今後とも当家において大切に保存伝承していただきたい。

（郷土史家　井上俊邦氏）

## 03 対応

報告書刊行までに調査に至らなかった。
今後も依頼があれば専門家とともに調査を行いたい。

# あとがき

文化財というと、美術館やお寺に所蔵される貴重な品々を思い浮かべる方も多いかもしれません。しかし、今回の相談会で私たちが出会った文化財は、そうした公の場にあるものではありませんでした。一般のご家庭に長年受け継がれてきた仏像や絵、古文書など、個人の思い出や地域の歴史を宿したものが寄せられました。それらは、持ち主の方々にとって単なる古いものではなく、家族の絆や土地の記憶を象徴する存在でした。

一方で、こうした文化財を未来へ繋げる難しさも痛感しました。今回のご相談9件のうち 3〜4 件が寄託・寄贈先を検討していました。地域にゆかりのある文化財や作品、作家のことをどのように伝え、守っていくのか。受け継がれてきた文化財を良い形で世に遺すためには、文化財の各分野の専門家との連携や地域に詳しい専門家と連携するなど、幅広く対応する必要があると実感しました。

個人所有の文化財は、持ち主がその文化財に興味があっても、相談できる機会がなく、価値を知らないまま次世代に受け継がれてしまうため、維持が難しくなっていくこともあります。また、修理や保存を相談したくても、どこに頼めばよいのかわからないという声も寄せられました。私たちが専門外の文化財に対しては、専門家の方に助言をいただき、それぞれの資料の専門性の大切さも改めて実感しました。これらは、文化財の継承において無視できない現実です。

相談会を実現するためにクラウドファンディングを行った際には、鹿沼市の文化財が対象だったにもかかわらず、全国から温かいご支援が寄せられました。地域を越えて多くの方が文化財の保存に関心を寄せてくださったことに、私たちは驚きとともに、大きな喜びを感じました。

三乗堂として、このような文化財の抱える課題を共に考え、修理や保存の道を探るお手伝いができたことを嬉しく思います。相談会を通じて、参加者の皆さまがそれぞれの文化財に込められた想いを語られる姿は、まさに文化を「受け継ぐ」という営みそのものでした。この冊子を通じて、そうした温かな交流の一端をお伝えできれば幸いです。

私たちはこれからも、文化財が過去と未来を繋ぐ架け橋となるよう、修理や相談の活動を続けてまいります。

一般社団法人 三乗堂

**鹿沼文化財発掘プロジェクト 実施報告書**
令和 7 年 3 月 19 日　発行

【発行・編集・デザイン】
一般社団法人 三乗堂

栃木県鹿沼市下沢 732 番地
電話：0289-78-4809
https://sanjoudou.org/

【お問い合わせ】

# 鹿沼文化財発掘 PROJECT

かぬま ぶんかざい はっくつ プロジェクト

本冊子は「鹿沼市ふるさと納税型クラウドファンディング活用公益活動支援事業」を活用して作成しました。

2025